

洛友會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友会

謹賀新年

昭和52年元旦

洛友会役員

- 会長代行 松田長三郎
- 副会長 芦原義重
- 異良知
- 本多静雄 (中部支部長)
- 平井寛一郎 (東北支部長)
- 宮田秀介 (九州支部長)
- 真田安夫 (中国支部長)
- 林重憲
- 大谷泰之
- 田中哲郎
- 正木知己
- 伊藤俊夫
- 荒井武治
- 藤本悟郎
- 山上孝
- 山本茂雄
- 吉田洪二
- 近藤文治
- 常任幹事
- 北海道支部長
- 北陸支部長
- 四国支部長
- 関西支部長
- 東京支部長

京都大学
電気関係教室
教官一同

愛知産業株式会社
取締役社長 井上弥三郎

大阪変圧器株式会社
取締役副社長 野田順二
常務取締役 毛利正登
常務取締役 清原道也



大林組
取締役社長 大林芳郎

関西電力株式会社
取締役会長 芦原義重

財団法人 関西電気
保安協会
理事長 和田昌博
専務理事 正井透
常務理事 辻宏一郎

関電化工株式会社
取締役社長 大亀進

栗原産業株式会社
取締役社長 栗原英三

京阪電気鉄道株式会社
社長 青木精太郎

高周波熱錬株式会社
取締役会長 藤田真一

株式会社 島津製作所
取締役社長 上西亮二

四国企業株式会社
取締役会長 渡部兼雄

株式会社 シンコーメタリコン
代表取締役 立石亨三

住友電気工業株式会社

立石電機株式会社
取締役副社長 立石孝雄

謹賀新年

昭和52年元旦



<p>日本建鉄株式会社 相談役 石川 辰雄</p>	<p>日新電機株式会社 取締役社長 大森 武司 取締役副社長 森 元行 常務取締役 大嶋 幸一</p>	<p>株式会社 電気評論社 取締役社長 松田長三郎</p>	<p>田辺商事株式会社 代表取締役 田辺 輝雄</p>	
<p>日比谷総合設備株式会社 取締役社長 鈴木 戩吉</p>	<p>日立化成工業株式会社 取締役社長 高木 正</p>	<p>阪急電鉄株式会社 取締役社長 森 薫</p>	<p>日本アーム工業株式会社 取締役社長 小林 昇</p>	<p>日本原子力発電株式会社 取締役会長 一本松珠璣</p>
<p>松下電器産業株式会社 電動機研究所 所長 片鎌 秀雄</p>	<p>北陸電話工事株式会社 金沢市大手町二番三号</p>	<p>北陸電力株式会社 代表取締役社長 金井久兵衛 顧問 荒井 武治</p>	<p>フジテック株式会社 取締役社長 内山正太郎</p>	<p>日立製作所 大阪営業所 電話〇六一〇三五七八一</p>
	<p>四電エンジニアリング株式会社 取締役社長 徳岡 毅</p>	<p>三菱電機株式会社 大阪営業所 取締役所長 大屋昭三郎</p>	<p>松下電子工業株式会社 社長 長 三由 清二 大阪府高槻市幸町一番一号</p>	

新春随想

洛友会会長代行
大正6年卒 松田長三郎

□明けましてお目出とうございませう。皆様の御多幸をお祈り申し上げます。今年は昭和52年。昨年は、陛下御在位50年の記念式典が、政府主催で盛大に行われましたが、国を挙げてとは行かなかつたことは、残念でした。我國の長い歴史のなかでも、これだけ長い元号は、確実な歴史になってからは、空前のことであり、元号の是非については、いろいろ議論もあるようですが、誠に御目出たいことでした。

□さて昭和52年の今年は、どういう年になりましょうか。この会報がお届きするのは、一月ですが、去る12月5日には、戦後初めての、任期満了に伴う総選挙があり、戦後30年及び自民党の長期単独政権も、議席の過半数を割り、共産党は惨敗しました。107億円とも云われる巨額の国費を使つての総選挙に、依然として買収が行われ、方々で検挙されているのは、民主政治の大きな耻辱でしょう。

□昨年は、婦人が参政権を得てから、30年だそうです。初回は、30数人の当選者があつたのが、だんだん少くなりました。一億一千

万の国民のうち、半数以上が女性であるのに、これは一寸考えさせられることでしょう。我國にも、以前は、女帝がおられましたし、現在、世界には、女王や女性大統領・首相・党首など、相当ありますが、戦後強くなつたと云われる我國のウーマンリヴも、前途尚遠であります。

□選挙と言えば、昨年はイタリ・スエーデン・米國と、夫々、その国らしい選挙が行われましたが、フォード現職大統領の落選は、聊か意外でした。1月20日からは、カーター新大統領が就任されますが、我國の自主防衛・貿易等の面でも、相当の影響があるように予想されています。一敗地にまみれたフォード氏は、退職後は生涯、莫大の年金と公舎を与えられ、その上、こういう人にはつきものの、回想録執筆依頼も引つ張り風であり、コロンビア大学に迎えられるとも、うわさされ、何とも羨やましいことではあります。

□昨年中の大きな事件を思い出してみると、ロッキード事件、ソ連のミグ25号爆撃機の不法着陸及び亡命騒ぎがあり、貿易の不均衡は正の各國からの強い要望や、原油

の値上げ、米・ソその他による200海里専管水域の一方的制定など、原材料やエネルギーや食糧等の、外国依存度の高い我國にとって、致命的と思われる苛酷な国際情勢が、ひしひしと迫つて来ている。我國周辺は、他國籍艦船が取り巻いているともおどかさされては、我國の現状は、果してこれが良いのかと、素人ながら心配にもなる。自國の防衛を他國にたよる、國民は軽い国防負担のもとでかせいだ、一時の繁榮に浮かれ、古來伝承して来た大和民族の特質長所を、惜し気も無く捨て去ろうとした。欧米の心ある人に、聖典とも考えられている教育勅語も、顧みられなくなっている。極端に言えば、今迄のことは、何でも悪いとして、良いものまでも捨て去ろうとしていた。心ある人はこれを心から憂えている。京都東山の靈山には、明治維新大業の原動力となつた、当時の志士の遺墨等が展観されている。二・三十代の、若い諸藩の軽輩ではあるが、その烈々たる愛國・憂國の熱誠には動かされる。我が國民は、優れた民族であつたればこそ、開國百年にして、これだけの文化國家・經濟

大國を築き上げて来たのである。新年に際していつも思うことであるが、私共は深く考えなければならぬのではないだろうか。

□嘗ての經濟の高度成長・繁榮を誇つた当時の「夢よ、もう一度」と願う所であるが、現実はその、生やさしいものではないらしい。一昨年初期には、その年末には、景氣は恢復するだろうと云われていたが、昨年に持ち越され、年末にも所期の効果は挙がらずに、本年に持ち越された。新内閣による適正な補正予算、更には新年度の予算が早急に実施される景氣の恢復や設備投資の活発化するようにしてほしい。目下景氣は悪いと云われ、昨年11月には、倒産企業は一、五〇〇件を超え、失業者も100万人を超したと云われている。半面、商店・百貨店・スーパーには、商品が氾濫し、驚くような高価な貴金属・宝石類が、ズラツと並んでいるのを見ると、やはり誰かが買つて行くのである。世は様々である。

□昨年は、冷害・台風の被害が多く、米作も、大きな打撃を受けたようである。更には、中共には二回に及びマグニチュード8級の大地震があり、前者では10万の犠牲者があつたとの情報は、詳細は一切報道されず、不明であるし、その他の國でも相当の地震が起つている。地震予知技術が相が進んでいると云われていた中共でも、二回目の時は予知できなかった。我國でも東海地方に大地震

がありそうだと云われてから既に久しいが、昨年、東大地震研究所の助手が、駿河湾の海底地殻状態は、20・30年後になるかも知れないが、明日、起つたとしても不思議では無い状態にあると発表してから、俄然大きなセンセーションを巻き起した。我國の地震學は、世界有数の地震國であるから、非常に発達しているが、その本拠は東大の地震研究所で、相当大規模のものであるが、大学紛争以來、その研究活動は、まひ状態にあることは甚だ遺憾である。早く研究態勢を復活してほしい。地震予知に対し、多年の經驗上、動物の感受性・敏感性が真剣に考えられていることは興味あることである。強度の地震による停電は必至であり、何としてもこれが早急の恢復は至上である。光り無き暗黒世界の不安と混乱を思うと、戦慄を禁じ得ない。「天災は忘れられた頃にやってくる」。平素の心構えと準備が必要であるが、兎角、その場になつてみないと気がつかないのは、われわれ人間の常である。

□エネルギーや食糧事情でも同様で、終戦前後における、これ等の事情は、今の人達には想像も及ばぬ、苦しくも又哀れな状態であつた。今後のエネルギーのホープは、原子力発電であるが、世界各

国ともその建設について、大きな困難に遭遇している。又発展途上国では、石油ショック以来、エネルギーを原子力に求める所も多く、これらに対する売り込み運動も盛んな模様であることは、ここでも、世は様々の感を深くする。新年に際して少し沈み勝ちなことを書きましたが、今年は平和で繁栄を招来する年でありますように祈ります。

□旧臘、昭和21年卒業の方の卒業30周年、昭和11年卒業の方の卒業40周年の記念祝賀会に招かれ、皆さんのお元氣なご様子を拝見して、大変嬉しく思いました。又11月27日には、洛友会九州支部の盛

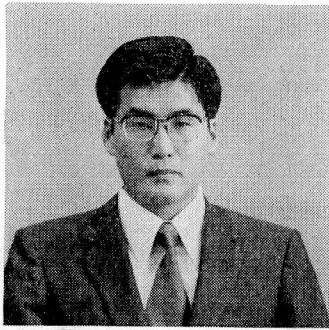
大な総会にお招きを受け、山本幹事、川端・林両教授と共に出席して、大変お世話になりました。宮田支部長、役員及び御出席の各位に厚く御礼を申し上げます。私は帰途、大分に廻り、壮大な新日鉄工場、西日本電線工場等を見て頂き、夫々大変お世話になりました。関係各位に、この欄を借りて厚く御礼申し上げます。

□最後になって失礼であります。が、会長鳥養先生の御逝去は誠に残念なことでありました。皆様とともに、先生の御冥福をお祈り申し上げます。尚、本紙次号は、先生の追悼号として出される予定であります。

研究 雑感

量子エレクトロニクス講座 助教授
電子工学科 41年卒

塩崎 忠



木村教授より洛友会報の原稿を依頼され「外国での経験など何で

も結構です。」というので、切までに書ければそれを返事がわりという事で引受けましたが、今日師走十四日に明々切日は出張と相重なるということであわてて義務を果さんと頑張っています。外国での経験といいますが、本来の目的である研究と調査以外に、洛友会報に載せていただくことは何もなく、木業を通じての経験を述べます。

野で研究し、教える立場となった自分にとって、電子工学ひろく工学とは何であるのかに多大の関心があります。自分は電子材料工学というものをやっており、その中でも圧電材料・電気工學材料・電気音響材料等を中心に研究しておりますので、それら材料の物性にも興味をむいて行くのですが、やはり工学という以上何らかの形で工業的実用化に貢献しなくてはならないと考えております。しからば何をどんな方法でやるべきか、何がやれるのかということになるのでありますが、これらを調べるため、一九七五年一月から八月までのヨーロッパ滞在（ヘルシンキ工科大学から招待を受け訪問した六カ月と他のヨーロッパの国計一カ月）と一九七六年九月中旬から十月中旬にかけてのアメリカ訪問を利用して、強行軍でかけずりまわり自分なりにいろいろと解答を得ましたので、新年を機会に私自身の今後の研究の糧となすべく以下の報告を致します。

例えば半導体工学を例にとつてみます。私が訪問したアメリカの大学の電気工學系教室には必ずIC製造装置がそろっており、学生が設計からマスク切り、フォトリソ、拡散等を含む製造と測定までやっております。アメリカでは半導体工業が進んでおり、それがごくふつうに一般教育・研究となつていのでしょうか。一方半導体工業が遅れていると思われるヨーロッパにおいても多くの大学にIC製造装置をおき技術者の養成も兼ねて研究に使用しております。これら装置一式は日本ですらある講座に所屬しているのになく電気系教室共有の設備のようなものであり、これだけの装置があるからといって特に研究費を多く使つて研究しているというわけではなさそうであり、日本では半導体工業が非常に進んでいて、もはや大学ではこのような装置を用いた教育や研究の必要がないのかはたまた各会社で入社後教育する方が安くあがると考えられていてか、あまり大学ではIC製造装置一式といったようなものは見受けません。デバイス製造という観点から欠如すると研究は自から、新材料の研究・新方法の研究と向い「物性・物性」と傾斜していくようです。

私が専門としている領域でこの十年間「表面弾性波」というものが関心を集め、現在では基礎研究の段階を終え工業界での応用研究、実用の段階になっていきます。この表面弾性波の応用について調査してみますと、アメリカが早くからそれも軍が多大の関心を示し、フィルター・ディレイライ

ン・タツ付ディレイライン・デイスパージングディレイライン・レゾネーター・コンポルバー・コレクタ・メモリーコレクタ等を既に実用化しまたは実用化しつつあるのに対し、日本ではステレオチューナのIFフィルターとして既に実用化されたいでTVのIFフィルターとして家電の一部に実用化されようとしています。ここには歴然とした市場の差が出ており、一方は軍需を考えた単価の高い高精度・高周波の素子を目指しているが、他方は十〜百MHzで値段が当面最大の争点となる家電用素子中心に進んでいます。これについて大学に關係した研究でも歴然とした違いが出てきます。MITのリンカーンラボで見せていただいた弾性表面波コレクタなどはまさに工学のかたまりそのものであり、すぐに高精度のリーダー用として飛行機に積み込めると言っております。表面波の研究を大学において最も精力的に行つたのはスタンフォード大学のカイノ教授を中心とするグループですが、彼の仕事での名声と地理的容易さもあつて氏を訪問する日本人は多く、私がこの研究所を訪れたとき氏をはじめ他の研究者も「日本からくる人は表面波応用と言えば、皆TVIFフィルターのことばかり言う」と笑つておりまし

た。私はこのたびの米訪問で、このような日米の応用の比較が出る

と必ず「日本にはおたくのような軍需がないのでTVIIFフィルタやFM10・7MHzフィルタをやることになり、その分だけ精

度があがらず、周波数も低い段階でとまってしまう。日本は平和国家であり、民需すなわち自動車・テレビ・カメラ・ステレオ・電卓・時計等に開発研究が集中し、これらにおいては良い品が安く製造できる。」と説明あるいは言い訳していました。不思議なこと

にあるいはあたりまえでもあるが彼等は「それは健全で良い。」と言います。技術進歩の立場からは喜んでいいのが複雑です。そのあと私は、アメリカに行つて日本電子工業界や通産省の代弁をするこ

とは職務でないのは十分承知で、「日本では電気系の大学・大学院卒業者の殆んど全てが先述の民需品や通信機・コンピュータの研究製造に集中し、少しでも良くかつ安くしようとしているので良い製

品が安く出来るのはあたりまえであり、ときどきあなたがた政府が言うようなダンピングではないのだ。」と言つて来ました。彼等大学の人もTI社やゼニス社・IBM社の人も「そうだ。よくわかる。」と言っています。良くわかるはずで、先ほど述べましたカイ

ノ教授にらせていただいた車はカローラでありました。(全くの余談になりますが、私がヘルシンキ工科大学からアパートまで毎日送つてもらつていた車はブルーバードでした。)

良くわかつていただいて電子工学・技術の進歩の立場からはそれでいいの悪いの良くわからな

いのですが、現在二つの国のおかれた状態のもとではそれぞれ最適のことをやっているようです。一方は軍用の装置を作るということ

で精度が高く高級なのですが単価が高くついても許され、しかも専門家が使用するのだということもあつて、荒稼ぎのようなまたど

となく大まかな研究製造となるとも考えられ、他方民生品は安いものを数多く作り、しかもだれでも使用できなくてはならないので、別の面の研究も必要です。このよ

うなことを考えるどちらが高級技術かわからなくなり、ただ言えることは、両者違つた国情のもと努力し、金儲けをしているようです。

今回のアメリカへの研究調査はこのような表面波デバイスの応用のされ方の他超音波の応用研究・光ファイバ通信・光エレクトロニクス等を含めており、WESCO Nのこれらに係した講演、ゼニス社、MITのリンカーン研究所

ニューヨーク工科大学、IBMトーマスJワトソン研究所・超音波シンポジウム(ここで研究成果発表して来ました)、UCSB、USC、TI、UCB、スタンフォード大学等でありますが、これの

研究所で会つたアメリカの研究者でさえその技術の高さを驚嘆している会社がヨーロッパにありま

す。それはフランスのトムソン・CSF社であります。私もカグネスールメールにあるこの社のASM部門に一九七五年の五月末頃行

き、表面波用精密加工技術その他の研究内容に非常に強い印象を受け、事ある毎にこの社の技術を高く評価し宣伝致しています。ワインしか輸入するものはないと思う

のは大まちがいのようです。ここで余談になりますが、ヨーロッパには優れた電機製造会社・航空機製造会社・自動車製造会社・船舶製造会社などいろいろあります。スコットランドや南欧から液体ばかり運ばないで、精密加工・微細加工の装置や航空機や自動車や巨大でない船や木紙製品をもつと輸

入する必要もあるのではないかと思われますが、または私は通産省に所属してないのでこれ以上詳しいことはわかりません。話を本題にもどし調査のもうひとつのテーマである光ファイバ通信に関しても、やはり軍関係が力を入れ

ているということがわかります。軍が光ファイバを支持する理由として、日本で言われている理由の他に、あるいは特に強調されて、「軽いこと」と「ショートによる

航空機爆発火災のないこと」などが目立ちました。従来の同軸銅線より軽くて済むということの利点を戦場で実際に使う重さで比較して

いました。思うにこの重量の減少は渡洋するギャラクシの輸送コストや戦場でのトラックの台数というとてもない節約になつてくるのでしよう。この他既に一部の

航空機や船舶上で混信のない光ファイバ電話を備えたりノイズのない映像ディスプレイ信号の伝達コストを完了しているというところで

した。この他アメリカでも公衆通信に光ファイバを使う研究もなされていきます。日本の場合電々公社を中心とした公衆通信と一部の専用通信それにCATVの送信などが需要であり、今後急速に実用化の進んで行く分野であると考えられ文部省も五十二年度から「光導波エレクトロニクス」ということ

で計画研究方式にもとづく特定研究を組織し、これに対処しようとしていきます。電子工学科教室から二グループが参加し、私もこの組織の研究者として加わり、この特定研究の期間である三年間とその先数年間のこの分野の基礎および実用

化研究を通して最先端のテクノロジをながめてみたいと思ひます。このとき欧・米での研究調査が役立てば幸いです。最後にりましたが、休日や土・日曜日に楽しんだフィンランドの雪の中や白夜のサウナと美しい風景、パリ・コートダジュール・ウィーン・モスクワ・サンフランシスコ・ワシントンDCでの短い観光旅行は楽しい思い出にながります。

◎研究室紹介

電力系統工学講座

この講座は、昭和三十六年四月に創設された電気工学第二学科の電力系統構成学講座として昭和三十八年四月に設置され、昭和四十六年四月に行なわれた電気系学科の改組のときに講座名を電力系統工学講座と改められた。昭和三十八年四月から昭和四十二年三月まで教授木嶋昭が担任、昭和四十二年四月から教授上之園親佐が担任して今日に至っている。

電力系統工学という言葉が使用され始めたのは約二十年前からと記憶している。電力系統という言葉が使用されたのは、確かでないが、私の記憶にあるのは戦後である。今日の電力系統の運用は、電気事業の初期には給電または電力

配給という言葉で表現していたようである。昭和十四年の電力統合によって、わが国の電力系統は全国的に連系され、大規模となった。この膨大な電力系統の一元的な運用ならびに系統運用をも踏まえた系統計画が必要となり、電力技術関係者では、今日という電力系統工学が論じ始められたようである。戦後において、自動制御工学、OR、電子計算工学、情報工学、システム工学などの導入によって、電力系統工学は次第にその体系を整備し、全貌を明らかにしてきた。

電力系統工学は以上述べた経緯で成長しつつある工学であるので、この工学を理解するには、電力工学としての発電工学、電力回路工学、絶縁設計工学に関する一応の素養がまず必要であり、その上に特にシステム工学が基礎学問とし不可欠である。このシステム工学は、自動制御工学、OR、情報工学、電子計算機工学などと深い関連をもっている。かように電力系統工学は、高度に発達した各種工学との関連をもつて成長しつつある学問であるだけに、一つの講座でその範囲をカバーすることは容易でない。

電力系統工学に前述したようにシステム工学など関連する工学の進歩に伴って益々発展が期待される。

る。すなわち、電力系統運用自動化のうち系統周波数制御、電圧無効電力制御及び経済性追求のための経済負荷配分制御などについては体系化されている。現在では電力系統の信頼度制御について体系化がすすめられている。将来は電力系統運用総合自動化の体系化へ進展するといわれている。

以上述べた電力系統工学の経緯と現状及び将来の動向をふまえて、かつ講座の人員（教授1、助手2、教務技官1、助教授欠）から左記の研究課題と取り組んでいる。

一、電力系統の安定度解析に関する研究

この課題そのものは電力関係者は誰れでもご存知のもので、今頃何事かとお叱りを受けそうである。電子計算機が発達した今日では系統安定度の計算は左程難しいものではないが、計算した結果は、実系統のそれとは異つたものである。問題とされている。

実系統の安定度と一致しない原因を挙げると、系統の集約法、機器定数、自動電圧調整器の動作、脱調現象、さらには同期発電機や誘導機など回転機の等価回路の表現などがある。

昭和五十一年度には、文部省科学研究助成金（一般研究(A)）をいただいたので、磁束測定用サーチ

コイルを埋め込んだ6KV同期発電機を2台購入し、手持ちの1台と併せて3台と受電系統を含めて4機系統を構成し、安定度の本格的実験研究に入る準備をしている。

二、過渡時における同期機の特性と定数の算定法に関する研究

この課題も古いが、地絡、短絡及び負荷の急変などが発生したとき、さらには自動電圧調整器が動作したときの同期機内の磁束分布については未だ明らかにされていない。そこで、磁路にサーチコイルを埋め込んだ小型の発電機を対象にしてこれらの課題の研究を行ってきている。これまでの研究成果のうち「過渡状態における同期発電機の制動巻線電流の測定とその解析」が昭和五十年年度電気学会学術振興賞論文賞として認められた。

三、論理方式による電力系統の故障検出と系統操作に関する研究

保護継電器方式は母線対母線、あるいはグラフ理論でいうノード対ノードを対象として仕組みが構成されている。これに対し、大規模電力系統においては、各ノードを対象とした系統状態パターン、系統故障パターン及び故障に伴う系統状態パターンから故障の発生個所及び種類を検出して系統を操

作する新しい論理方式を編み出そうとする研究である。

四、超々高圧送電の絶縁設計に関する基礎的研究

この課題の焦点を絶縁破壊と合理的絶縁設計においている。電力系統の絶縁を脅かす電圧は、ご承知のように雷サージ、開閉サージ及び商用周波電圧に大別される。これら電圧による絶縁破壊の機構を実験的に明らかにして、これら電圧間の相互協調をもとにした系統設計を確立することとしている。絶縁破壊の機構に関する実験的研究には、プローブによる空間電荷の測定、分光器による放電のスペクトル測定、放電時の超音波測定など開発し、成果をあげて来ている。昭和四十八年度には文部省科学研究助成金（一般研究(A)）をいただいた。

五、電流のしゃ断現象に関する研究

従来からこの研究は多くの研究

者によってなされているが、消弧現象については未だ実験的にも理論的にも未解決のままになっている。この課題は、しゃ断器のしゃ断性能の評価の点において重要である。そこで、まずアークの性質を分光学と超音波工学の両面から実験的に解明することとしている。

以上述べた課題の研究を関連講座の方々及び関連する研究所等の協力を得てすすめているが、独善的研究に落ち入らずにわが国の電力技術の向上に寄与したいと念願している。何卒洛友会会員各位のご批判とご支援をお願い申し上げます。

なお講座の構成メンバーは左記の通りであります。

- 教授 上之園親佐
 - 助手 河野俊彦
 - 金子和博
 - 教務技官 山本修
- (上之園記)

通勤の道すがら

中国電力広島電力所
昭和25年卒

石田隆弘

広島市の旧市内は太田川河口の三角州の上であり、6つの川が市内を流れている。川の水も一頃よりずっときれいになってかつての清流が蘇り、広島自慢の一つである。私が現在住んでいる社宅はこのデルタの東北端に当り、すぐ山に接した所にある。勘定してみる

と、入社以来6回引越しをしており、現在の社宅は4年目になるが、随分方々の社宅にお世話になったものだ。

ここから市の中央部を斜に横切り、西寄りにある電力所事務所まで5kmあまり、合計3つの川を渡って通うのが私の通勤経路である。交通機関は市バスと市電の乗り継ぎが便利であるが、運動不足解消の一助と、気持ちよく一日をスタートしたいため、往路は市電を割愛して歩くことにしており、バスと徒歩による約40分が平均通勤時間である。大都會で遠方から通勤されている方々からみると、大へん恵まれている。ついでながら、大都市では殆んど姿を見なくなった市電だが、当地ではかなり老兵ながらも猶健在であり、近時クリーンな大量輸送機関として見直されつつあり、乗客も増加していると聞いている。

7時45分前後に家を出て、バス停までは5分足らずである。この辺りは原爆による全焼を免れたため、昔ながらの狭く曲った道の住宅地で、マイカー族には不便だが、かえって騒音や排気ガスに悩まされることのない静かで落ち着いた町になっている。

バスは通勤、通学の人達でかなり混む。時に満員通過となり腹を立てることはあるが、そう何時も

の事ではない。しかし、一旦自分が乗客の立場になると、できるだけ止まらないことを願い、近距離で降りる人がいると「この位なら歩けばよいものを」と腹立たしくなる。人間の身勝手さの反省材料である。バスが中央部に近づくにつれ、降りる人が多くなるが、市の中心街「本通り」バス停で私もその一人となる。所要時間は待時間とも約20分である。

バスを降りて職場までは歩いて約15分である。ルートはいくつかあるが、同じ道を既に2年半近く歩いて通っている。

アーケードのある本通商店街を西へ向って歩き始める。未だシャッターを閉じた店が殆どで、開いている店といえばモーニング・サービス中の喫茶店位しかなく、近くのオフィス街のサラリーマンらしい人が結構入っており、O・Lが多い。この人達は余程小遣が裕福なのだろうか、将来家庭を持った時には、主人は朝食抜きで出勤する事になるのだろうか等、余計な心配をしたくなる。市内中央部へ向って歩いて来る人は多いが、私のように外へ向って歩く者は極めて少ない。

本通を過ぎ橋を渡ると平和公園である。原爆の爆心地に近く、慰霊碑を中心とした三角地帯の公園で、原爆関係の諸施設で有名であ

るが、広島では数少ない緑に恵まれた地域であり道はその真中を通っている。朝の平和公園は気持ちよい。木々の緑が目に来く、四季の花が楽しい。林間から朝日も見れ、たくさんの鳩が餌をついばんでいる。うまくタイミングが合えば、公園内の時計塔から原爆の時刻8時15分を知らせる鐘の音が流れ、メロディーを口ずさみつつ、足を運ぶ。最近、公園内の樹木に木の名前を書いた札がつけられたので、知識のない私などにも親しさを覚えるようになった。

平和公園には朝早くから団体の観光客が多い。恐らく過密スケジュールを消化するため、朝一番にここを訪れた人達であろう。観光客に最も人気があるのは「原爆の子の像」である。いつも大勢の人を集め、像の前では入れ替り立ち替り記念撮影が続く。この像はパソフレットの表紙等によく使われるので、御存知の方も多いと思う

が、原爆症で亡くなった一人の少女のために、児童、生徒が世界に呼びかけて造られた。この少女は、2才たらずで被爆、順調に成育していたが小学校卒業を前にして突然発病し、回復への願いをこめて葉の包紙の折鶴を死の最後の日まで折り続けたという。折鶴を頭上にかかげた少女の像を頂上に、台座内には平和への願いを刻

んだ石を置いた大変よくできた記念碑である。ところが、これに修学旅行や団体旅行の持って来たおびたらしい千羽鶴がぎっしりと吊り下げられ、外にはみ出した部分は雨で変色したり、泥に汚されたり、折角の記念碑が千羽鶴に占領された感が強い。この状態は、春、秋の旅行シーズンには特に激しく、中にはかなり宣伝臭の濃い大きな名札のかかっているものもある。管理する市の方でも苦心して整理しているようだが、善意の贈物であるだけに無下に断わることもできず、頭の痛いことだろう。何かよい知恵はないものだろうか。

平和公園を過ぎると、3つ目の橋にかかる。昔の河岸はびっしりと家が建て混んでいたが、最近は両岸とも河岸公園に整備され、川の流れにふさわしい景観となった。橋の上流、下流にわたってモーターボートが数十台繋留されている。オールつきボートでは時代感覚に合わなくなつて、貸モーターボート屋に転業したのか、マイカーに飽き足らずマイボート族が増えているのかわからないが、昔ながらのボートに郷愁を感じるのは年のせいということになるのだろうか。この橋の上でこちらに向

って歩いて来る顔見知りの職員と行き交う。殆どが途中で市電を降

り、本店や支店へ向って歩け歩け運動をやっている人達である。お互いの道順が一致するのは、この橋の上しかないが、顔を合わせる人は殆ど決まっている。この人と会えば今日は大分早いな、この人だと急がないと遅れるぞといった具合である。先方からみると、私の方はあまり当てにならない時刻標識ということだろう。

ここから先は商店街になる。車の少ない裏通りを通って職場へ急ぐ。間もなく電車道になるが、電車を利用していればここで下車し、もう職場に着いている頃だ。横断歩道を渡れば職場と同じ町内になる。かつては西の歓楽街として栄えた所だが、今は中央部に勢力を奪われてしまつて往年の活気はない。しかし店構えは立派とはいえないが、古くからの名の通つたおでん屋、一杯屋などが数多く、屋食のパラエティーを楽しんだり、会社のひけた後、同僚と一杯飲んだりするには事かかない、気の置けない庶民の町だ。

職場に着いた。既に朝の職場体操が始まっている。道草を喰い過ぎてしまった。

秋思三賦

大正10年卒

樋口宣昌(貞三)

台風一過秋分穩 蕭條閑靜昆侖山
短日將暮四辺寂 香煙推昇先靈安
昭和丙辰秋分

人生八十愧功少 三度更名不大成
堅持野望將躍動 神身頑健似壯輪
昭和丙辰第八十回誕辰

萬山秋色兔路里 拽杖漫步黃粟寺
逆元傳教千歲昔 佛教墮地待救主
昭和丙辰寒露

東京支部活動報告

最近の洛友会東京支部の活動につき御報告いたします。

(五一・一一・八)

一、講読会 八月二日(土)

京橋会館へ大谷先生をお迎えして「わが大学生活をより返って」と題するお話を聞いた。

参加者 二一名

二、見学会 一〇月九日(土)

読売新聞東京支社の「新聞ができるまで」を見学した。

参加者 四〇名

三、バス旅行会 十一月三日(祭日)

房総めぐりを行なった。

参加者 六三名

四、趣味の会・グループ活動
それぞれ活躍中です。

(幹事・伊藤貞男記)

洛友会関西支部 家族見学会

関西支部恒例の家族同伴のバス見学会が秋涼の候、一〇月二四日の日曜日に愛知県犬山の明治村にて挙行された。

昨年と同様大阪組はホテル阪神前、京都組は京都駅八条口に集合、大阪組バス二台、京都組バス三台に各々分乗し、名神を一路東へ、犬山へと向った。此の日は天候が危ぶまれ集合時は薄曇りで膚寒い天候であったが、それでも年一度の楽しい行事ということ

で、会員一一四名、家族一四六名(うち子供四一名)合計二六〇名というかつてない多数の参加者となった。

途中交通渋滞もあって昼すぎ犬山の旅館喜曾林に到着した。先づ伊藤俊夫支部長の挨拶があり、これに対し全出席者を代表され会長代行松田長三郎先生より謝辞があった。

昼食後再びバスに分乗し犬山を出発する頃には危ぶまれた天候も回復、目的の明治村に到着した時には雲ひとつない快晴となり汗ばむほどであった。博物館明治村は、昭和四〇年三月に名古屋鉄道(株)により、入鹿湖畔の百万平方メートルに及ぶ広大な丘陵地に、日本が近代国家へと躍進した輝かしい明治時代の貴重な建物や資料を永久に保存する目的で建設されたものであり、それらのどれ一つを見ても、近代日本の黎明期である明治の息吹きをひしひしと感じさせるものばかりである。



中でも初期の京都市電、あるいはつい最近まで河原町通りにあった聖ヨハネ教会、聖ザビエル教会などは、我々にとつては忘

れられないものであり、往時が偲のばれ非常に楽しい見学会であった。

参加者の数も年々増加の一途を辿って居り、世話役一同嬉しい悲鳴をあげて居りますが、これからも益々和やかな楽しい見学会を続けて行き度いと思っておりますので皆様多数の御参加を御願ひする次第です。

(幹事・宮原記)

大正十四年卒業・御卒業三拾五周年

記念会に贈る

昭和三十六年五月七日
熱海大観楼にて
松田長三郎試作

一、まなびをおえて

はやもいくとせ

おもいはかえる

ふるきよきとき

わかかりし日の

美しきおもいで

こよいのうたげ

ともにかたらむ

二、みそいつとせの

ときはながれぬ

まぶたにうかぶ

彼の師彼のとも

なみあらし世を

よくぞ耐え来し

たがいのさちを

ともに祝わわん

三、なごりはつきし
さらばわがとも
宇宙世紀の

はじめるとし
はじまるとしの
すすみゆく世に
ちからあわせて
またあう日まで
ともににはげまむ

昭和十一年卒業・御卒業二十五周年

記念祝賀会に贈る

昭和三十六年十一月三日
於清滝ますや
松田長三郎試作

一、こころはづみて 世にいでし
二十五年まえの わかき日の
ゆめおおかりし あけくれを
きようのうたげに

二、ひとたびいくさ はじまれば
くにをこそぞりて たたかいし
ともしき日日を たえぬきて

三、くにはやぶれて 山河あり
やぶれしあとの かなしさを
はじめて知りぬ 身に沁みて

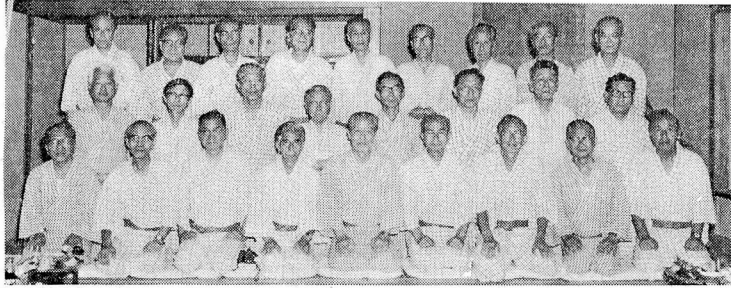
四、さらばわがとも あらし世を
よくぞ耐え来し さきわいを
ともいわいて いやさらに
また会う日まで

つよくいきなむ

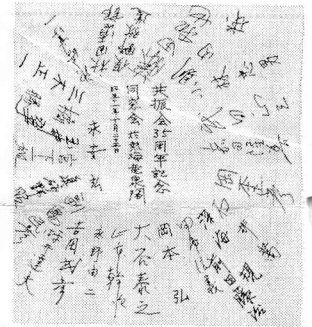
共振会 (昭16・3) 卒業35周年同窓会

繰上げ卒業直前3年間の大学生生活を全うし得た最後の組たる私共共振会は関東班・関西班各22名健在で夫々旧交を温めて来たが、今年は35周年の合同クラス会を関東班主催で開く事を6月に決定した。

- ①開催 昭和51年10月23(土) 24(日)、一泊
- ②熱海市国家公務員「竜泉閣」
- ③参加者25名(44名の57%) 最高記録



共振会卒業35年記念 昭和51年10月23日於熱海竜泉閣



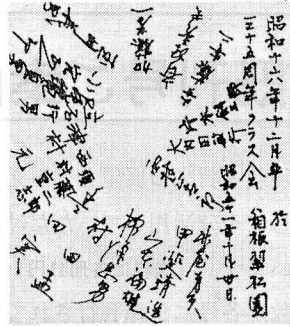
大谷先生には寸暇を割いて御臨席の上、母教室の近況を紹介された。入浴・懇談、記念撮影して開宴、一人3分間として経歴現況を報告し合ったが、忽ち制限時間超過の熱弁続出、時のたつのも忘れて傾聴した。専門の電気に限らず、経・医・業などの職業分野に適應性を發揮し、年齢のせいも環境に合う健康増進策を各自立案し実践の様が窺われた。山本幹次氏の入会を満場承認し次は40周年の会を催す事とし、翌朝会食の後秋雨しぐれる中を散会していった。

(幹事・岡本記)

三十五周年クラス会

五年毎に行って来たクラス会を今回初めて箱根をこえて開催した。集う者十九名、遠隔地なので先生方は御呼びせせず仲間内だけと

した。集う者十九名、卅五年の星霜は往年の美少年を半白にかえ、定年を迎えて第二の人生を歩み出したものが多い。息子、娘の縁談が巾をきかす。卒業後直にあの戦争に参加した者が多いが、幸い今日あるを得お互の無事を嬉びあった。今回は先生方不在のせいか、いつになくお酒がはづんで深更に到るまで昔話に花を咲かせ、十年位は若がえった気になる。



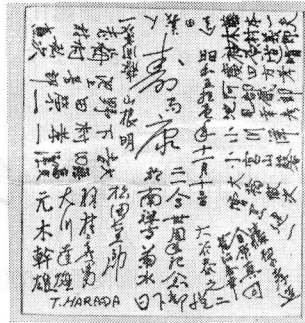
翌日は相憎の強風ではあったが、箱根一円の風光をめで、次回は二年半後の五十四年春関西で行う事を約して解散。今回不参の方々次回には是非御出席を戴きたい。

(加藤孝一記)

卒業三〇周年同期会

我々昭和二十一年九月卒業の者は本年が卒業三〇周年に当たりますので五年振りに同期会を開きました。恩師松田、羽村、大谷三先生が御出席下さり、同期生五二名中

二八名の者達がしばし欲談の一時を過しました。



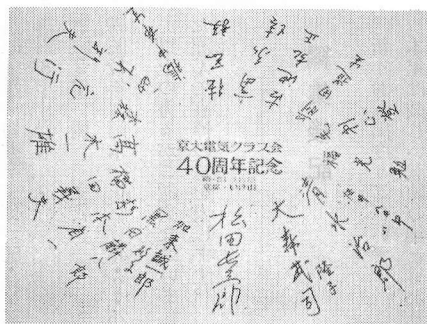
場所は室賀君の世話による京都南禅寺・菊水、記念品として小川君の世話による家族アルバム、その外同好有志が朝から藤本君の世話による京都GCでプレーを楽しみました。北は秋田の阿部君、南は沖繩の梅本君も参集し楽しい会合でありました。

(木村義郎記)

卒業四〇周年クラス会

京都の紅葉が最も美しい季節、十一月十三日、私達昭和十一年組は、京都市内「いけ山」で、四十周年記念同窓会を開催しました。全国から集る者十七名に松田先生をお迎えし、それに今回始めてご夫人二人が参加され、総計二十名の盛大な会合となりました。当初はこの他に三名とご夫人数人の参加予定でしたが、急用などで欠席

され残念でした。昭和十一年卒業は四十二名中既に十三名が物故され、不明二名で二十七名が健在です。私達はこれまで五年毎に集りましたが、前回以後、岩崎、川村、中山の三君が逝去され今回その顔が見られなかったのは淋しいことでした。当日午後五時開会。記念写真(徳岡、福中両君遅参で欠)の後、大森君が世話人を代表して挨拶。続いて鳥養先生始め物故された諸先生並に級友達のご冥福を祈って全員で黙祷を捧げました。



この後、松田先生のお話を伺いましたが、八十才を越えられてなお昔と変わらぬお元気なお姿、お声に、六十を遙かに越した元学生達は、二十年後の我身の行末を思い、せめて健康だけでもあやかりたいと、心に念じた次第でした。

宴会に移って、五年ぶりの会合で話の花が咲き、祇園の美女連のお酌に秋の夜の美酒は一入でした。本職の踊に続いて、日頃習い覚えた素人芸術が次々と飛び出し、賑やかで楽しい宴席となりました。

八時過、再会を約して一応散会しましたが、一部の者は宿泊して翌日、東山方面を廻って木物の紅葉を觀賞し京の秋を満喫しました。

なお、松田先生のお話の中で、二十五周年の会合に先生が贈って下さった歌を改めて御披露下さいました。頂いた私達は忘れていて申訳ない次第でした。先生のお許は得てありませんが、御恩情に報いると共に欠席者への報告として再録させて戴きます。(森)

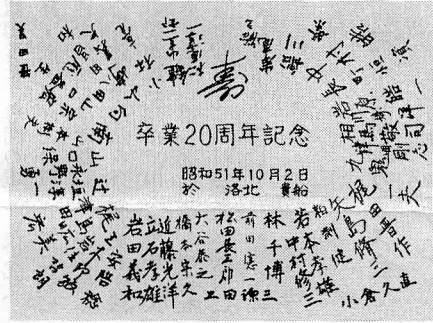
卒業20周年クラス会

(昭和31年卒業生)

昭和51年中秋の10月2日、洛北貴船にて卒業20周年のクラス会を開催した。

恩師松田長三郎先生、前田憲一先生、林千博先生、大谷泰之先生をお迎えし、同じ教室で学んだ懐かしい顔ぶれが38名出席して、なかなかの盛会であった。中には卒業後はじめて見る顔もあり、話はずむ。

午後5時過ぎ開宴、38名の近況報告に耳を傾けるうちに時のたつのを忘れ和気あいあいの宴会が、



続いた。最後に恩師の先生方のお話を拝聴してお聞きとなった。翌日はゴルフ天狗約10名が京都ゴルフ西コースに集まり、日頃鍛えた腕を競い合った。

安陪 総記

『洛友会々費納入の御願い』
会の運営の原動力は会費です。会費納入の請求があまりましたら速やかに御払込下さい。これが御協力の最大のものであります。

会費 二三〇〇円
支部会費 七〇〇円
計 三千円
よろしく御願ひ申上げます。

電気評論既刊号ご案内

電気評論は、常に新しい技術の現状と将来の展望をとらえています。特に既刊特集の各号はそれぞれ単行本として十分活用していただけるもの。安い旧定価のまままでご利用していただいています。(送料は各冊41円)

この外に一般論文海外文献等多数が各号に集録刊行されています。詳細は毎年12月号の巻末「電気評論総目次」をご参照下さい。

各号とも残部が少々あります。安い旧定価のまままでご利用いただいています。

株式会社 電気評論社

本社 京都市左京区田中大堰町49
郵便番号 606 電話 京都 (075) 701-2582

刊行年	著者	定価	残部
昭和41年	中山 健一	51・5・14	講大10年
昭和42年	天野 秀夫	51・9・25	講大10年 奥出幸次郎
昭和43年	松石 源三	51・7・3	講大11年 鷗池喜太郎
昭和45年	鳥養利三郎	51・9・24	講大15年 原田 立夫
大正9年	小沢 仙吉	51・10・27	講昭3年 柴辻 卓爾
昭和3年	元 尚正	51・4・24	講昭3年 野上 寿
昭和5年	潮江 尚正	51・8・11	講昭4年 平塚 三郎
			講昭7年 紺井嘉三郎
			講昭8年 岩本 淳一
			講昭9年 橋 文成
			講昭12年 岡本 正臣

編集後記

○新年お目出度うございます。本年は厳しい試練の年と言われ内外共に多くの難問をかかえて居ります。年頭に当り、会員各位の御健康と御活躍を祈り上げます。冒頭に有力先輩及び法人より謹賀新年の御応募を頂き、厚く御礼申し上げます。その際特に間崎竜夫氏(大正七年卒)の筆になる松の色紙を頂きました。

○次号(四月発行)には、故鳥養利三郎先生の追悼号を発行致し、偉大なる先生の御業績を偲び度いと存じます。各支部よりの御投稿をお願いします。